

# 大地震

対応マニュアル

## 緊急連絡先

ふりがな	
氏名	.....
生年月日(西暦)	.....年 月 日
住所	.....
自宅TEL	(.....)
保護者携帯番号	(.....)
持病	常備薬 血液型
アレルギー	

 **学習院女子中・高等科**  
GAKUSHUIN GIRLS' JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL  
東京都新宿区戸山3-20-1

## 1

### はじめに

このマニュアルは、**登下校中又は在校時に大地震が発生した場合**について、数日後に最低限の社会インフラ(電気・水道・ガス・交通)が回復するまでの対応方法をまとめたものである。

※台風や豪雨などの大災害の際にも、このマニュアルに準じて判断する。

## 5

### 学校との連絡など

#### 女子中・高等科からの連絡

- ①一斉同報(さくら連絡網)
- ②本校ホームページ  
<https://www.gakushuin.ac.jp/girl/>
- ③災害用伝言ダイヤル(171)  
利用電話番号は03-3203-1901(学校代表番号)
- ④ニッポン放送(AM1242/FM93)の「学校安否情報」

#### 女子中・高等科への連絡

- ①学年専用メール
- ②災害用伝言ダイヤル(171)  
(学年専用メールが使えない場合のみ)  
利用電話番号は学校に届け出ている自宅又は保護者の電話番号とする。
  - 1)学年・組・番号・生徒氏名
  - 2)本人の安否
  - 3)現在いる場所
  - 4)家族の安否を30秒以内に録音する。

## 2

### 登下校中の大地震

#### 地震直後

～無理に移動しようとせず、まず安全確保を～  
災害時の安全確保と混乱を避けるため、むやみに移動しないことが最善策。

#### 地震後ある程度落ち着いたら

～生活ができる場所へ～  
安全確認の上、次のA)～C)で最も安全な方法を選択する。

- A) 家に戻る
- B) 女子部に避難する
- C) 近くの安全な場所に避難する

私立小中高等学校(避難校ネットワーク)  
広域避難場所 公立小中高等学校  
大学 知人宅 一時滞在施設

※広域避難場所や学校では、食料や飲料水、トイレの提供を受けられる可能性がある。  
被災状況によっては、すぐに歩き出さず、そのような場所に身を寄せて支援を待つことも大切である。

#### 女子部以外に一時滞在したら

～帰宅(あるいは女子部)へ～  
交通機関・被害などの情報収集の上での状況判断、あるいは避難先からの指示により帰宅するかなどの対応を決定する。

## 3

### 帰宅判断

「むやみに移動を開始しない」が原則である。

※地震発生後、余震が落ち着き、帰宅手段等の安全が確保されるまでは、原則として避難場所にとどまる。また交通機関が動いていない場合は、徒歩で帰宅することになる。女子の中学生・高校生が大地震後の混乱の中を徒歩で長い距離を歩くのは、様々な危険があることを意識して行動する。避難所も家庭や女子部とは環境が大きく異なることに注意すること。  
※大地震発生時に在校中の場合は学校の指示に従って行動する。

#### 帰宅できるか判断する

- 靴……長距離、がれきの中を歩けるか
- 服装……日ざしや寒さにたえられるか
- 体力……自宅までの距離を歩けるか
- 道路……自宅までのルートはわかるか

#### 帰宅についての心がまえ

- 食料や飲料水の確保はどうか(途中で支給してもらえる可能性があるか)
- むやみにスマホを使わない(電池が切れる)

#### 途中で帰宅できるか、もういちど考える

- 途中の帰宅支援ステーションや広域避難場所までひと休みして体力を回復。
- 情報を手に入れ、今後の方針を考える。
- 無理と判断したら私立小中高等学校、公立学校や広域避難場所にとどまり支援を待つ。

#### 帰宅したら学校に連絡を

- 帰宅して落ち着いたら、学校に帰宅したことを連絡する。

## 4

### 在校時の大地震

#### 1. 発生直後の処置

落下物(窓ガラス・照明など)に注意する

#### 防災心得

- あわてずに、周囲に目をくばる。
- 周囲の人をおちつかせる。
- 必要な時以外は声を出さない。
- 事態を正しく判断し、人の言葉にまどわされない。
- 教職員の指示に迅速に従う。

- 落下物に注意し、頭部を保護する。
- ①「教室」  
出入口を開ける。机の下などに入り身体を低くする。
- ②「廊下・階段・トイレ」  
壁または柱のかけで身体を低くする。
- ③「屋外」  
建物のそばからすぐに離れ安全なところで身体を低くする。
- ④「体育館」  
教員の指示に従う。
- ⑤「プール」  
教員の指示に従う。

#### 2. 発生後の処置

- a 教職員の指示に従い行動する。
- b 混乱が続く場合は全員校舎内に留まり、保護者の迎えを待つ。

#### 生徒の帰宅方法

保護者への直接引き渡しを原則とする。  
保護者と連絡が取れない場合は学校で待機。交通機関が復旧し安全に下校できると判断した場合、保護者承諾のもと、順次下校させる場合もある。

## 6

### 家族・友人間の安否連絡

各通信事業者(利用のスマホのキャリア)が提供している災害時の安否連絡方法を事前に確認し、複数の連絡手段を準備しておきましょう。

#### 災害用伝言板サービス

各通信事業者が提供しているサービスで、伝言の登録と確認ができます。

#### 災害用伝言板 web171

NTTが提供するサービスで、インターネットを利用して被災地の方の安否確認を行う伝言板です。

#### 災害用伝言ダイヤル171

NTTが提供するサービスで、被災者が安否メッセージを登録し、本人以外がそれを聞く「声の伝言板」です。

#### 防災関連情報サイト

災害時の避難や行動等に関するサイトを紹介します。検索して目を通しておきましょう。

- 総務省消防庁：地震防災マニュアル
- 警視庁：地震のときはこうしよう
- 東京都交通局：災害対策(都営地下鉄 防災ハンドブック)
- 東京都防災ホームページ：女性視点の防災ブック「東京くらし防災」

## 7

### 応急手当の方法

まず、自分の安全を確保する  
感染症などに留意して実施する

#### 人が倒れていたら

意識や呼吸・脈・外傷の有無などを観察する。  
●意識がある → 訴えを聞き、必要な応急手当をする。  
●意識がない → 助けを呼ぶ。  
→ 状態に応じ心肺蘇生。

#### 切り傷などによる出血

大部分の出血は、数分間の圧迫で止血することができる。  
●出血が少なければ、傷口をきれいな水で洗い、清潔な布を当てて上から圧迫する。  
●心臓より高い位置に保つ。  
※ガラスなどが深く刺さっているときは、抜かず固定し病院へ。  
※ビニール袋などを利用し、傷病者の血液に直接触れないよう注意。

#### やけど

- きれいな水で冷やす。(水が十分になければタオルなどを濡して当てる。)
- 水ぶくれは破らないよう注意し、清潔な布を当てる。  
※衣服は無理に脱がさず、上から冷やす。

#### 骨折

- 添え木(板・傘・ダンボールなど)を当て、痛くない位置で固定し、病院へ。  
※血行障害の観察のため、指先・足先は見えるようにしておく。  
※骨がとび出している場合は、清潔な布を当て、くるむ。

#### 突然の災害・けが・病気に備えて

- 応急手当・心肺蘇生法の講習会に参加する。
- 清潔なハンカチ・タオルを持ち歩く習慣を。